

答 辞

長く厳しい冬の寒さもようやく遠のき、日差しの温かさに春の訪れを感じられる頃になりました。本日は私たちのために、このような盛大な卒業式を挙げていただき、誠にありがとうございます。松永学長をはじめ、諸先生方、並びにご来賓の皆様にご臨席をいただき卒業生を代表いたしまして厚く御礼申し上げます。

振り返りますと農工大での四年間はあっという間で、これまでの日々がつい昨日のことのように思えます。緑多き広々としたキャンパス、サークル活動や学園祭、全国から集まった学友たち、全てがこれまでになく新鮮で、様々な出来事に驚いたことを今でも覚えています。特に講義や学生実験は印象的で、高校までとは違う専門的内容に大きな戸惑いを覚えました。その理解に懸命になり、図書館のグループ学習室で友人たちとディスカッションをしたり、図書館の文献を苦労して調べたりしたこともありました。そうした中で、専門的な知識だけでなく、自ら学ぶ姿勢を身に付けられたと思います。

さらに卒業研究においては、問題解決のために試行錯誤を重ねたことで、主体的に考える力を身に付けると共に、研究室で毎週行う研究報告会、一年間の研究の総括となる卒業論文発表を通じ、自らの意見を伝える表現力を養うことが出来ました。

今日の私達を取り巻く状況は、決して易しいものではありません。昨年10月にTPP、環太平洋パートナーシップ協定が大筋合意されたように、今後は農業、工業のみならず様々な分野で世界との競争が激しさを増していくことでしょう。しかし私達は、農工大での講義や専門分野の研究を通して、視野を広げるとともに自ら学んでいく姿勢を身につけることができました。こうした東京農工大学での経験を活かして、よりよい社会を築いていけるよう、努力していく所存です。

最後になりましたが、今日まで指導して下さいました先生方、大学生活を支えて下さった職員の方々に心より御礼申し上げます。また、私を様々な面で支えて下さった先輩、後輩、友人、そして家族に感謝します。

東京農工大学の更なる発展を祈念し、答辞とさせていただきます。

平成28年3月25日

卒業生代表

応用分子化学科4年

阿部 良太